

【甲府地方法務局長賞】 笑顔を「おすそ分け」

甲斐市立 敷島中学校

二年 おたぎり 莉 お 桜

私は小学生の時、いじめを受けていた。暴力は振るってこなかったけれど、私が一人になるようにグループから省かれたり、仲の良い子から離されたり、悪口を言われたりした。学校だけでなく、習い事の中でもいじめを受けていた。とても嫌だったけれど、「やめてほしい」と言えず、「もっといじめがエスカレートしたらどうしよう」「嫌われるのは怖い」という気持ちでいっぱいだった。

否定されることがとにかく怖かった私は、言われたことに従うだけで、自分で行動することができなくなってしまった。そして、精神的にも参ってしまい、自律神経失調症にもなってしまった。

相談ばかりの毎日だったけれどそれでも唯一、私の家族は呆れることなく私のいじめに向き合ってくれた。母はアドバイスをくれて、姉や妹は「いじめてくる人達をボコボコにしてあげるからね！」と笑わせてくれた。とても嬉しかったし、家族からの励ましの言葉で私は、「頑張ろう」と思える気力をもらえた。

しかし、ある日突然、私へのいじめがなくなり、優しくしてくれるようになった。その代わりにまた別の子が、いじめられるようになってしまった。私は「優しくしてもらえた」と嬉しい気持ちの反面「あの子は前の自分のように辛い毎日を送らなければならないのかもしれない」と不安な気持ちもあった。

その子はいじめられるようになってから、一人でいることが多くなっていった。誰も助けようとしていなかったのも、私も最初のうちは助けなかった。また前みたいに、一人にされるのは怖かったからだ。それでもやっぱり、いじめは続いてさすがにかわいそうだと思った。そこで私は、いじめるような人達とはあまり関わらないようにして、いじめられていた子になるべく話しかけるようにした。そして、もともと仲の良かった友達と一緒に行動して、人間関係で嫌な思いをしないでいられるようなグループをつくった。すぐ行動に移すべきだった、と反省すべき点はあるが、自分なりの助け方で友達を救うことができたのは、少し誇りに思えた。

しかし、児童会副会長になった頃、一つ上の学年の児童会役員達から、また嫌がらせをされるようになってしまった。仕事を任せてもらえなかったりなど、私のことを認め

てくれず、私が失敗してしまった時は笑って見ているだけで、フォローしてもらえなかった。「必死になって頑張っているのに」と、とても悔しい気持ちになった。それでも私はマイナスな方向に考えないで、任された仕事が少しだけであっても、一つ一つの物事に全力で丁寧に取り組んだ。

そして私は、このような行動を間近で見えてきて、「人が傷つくようなことをする生徒でいっぱい为学校になってほしくない」と強く思い、児童会長に立候補することにした。特定の人達だけでなく、誰にでも優しく、平等に接することのできる学校を目指すため、選挙中にたくさん呼びかけた。当選して、児童会長になってからは、色々な企画を考えた。その中で、私は特に「感謝の実」という取り組みに一番、力を入れた。果物の形をしたメッセージカードに感謝の気持ちを書いて、誰かへ宛てるというものだ。たくさんの人達が協力してくれて、この取り組みのおかげで学校全体の仲が深まったと思うと、とても達成感を感じた。小学生の妹に、今も、「感謝の実」の取り組みは続いているのか聞いてみたら、妹はまだ続いていると答えた。とても嬉しかった。私達の代の児童会役員達が一生懸命考えた企画だからだ。これからも、誰かへ「ありがとう」と思えるような優しい生徒でいっぱいの母校であってほしい。

私は、今までの経験から、いじめがどれほどひどいことなのか学んだ。「嫌だな」ということをされれば誰だって辛いし、自分のことを否定してくる悪口で自信を持てなくなってしまうこともある。私と向き合ってくれた家族や、周りの人達には、こんな思いを味わってほしくないし、一緒に笑って過ごしてきたい。そのためには、周りに笑顔をおすそ分けしてあげることが大切ではないかと考えた。「おすそ分け」とはもらいものの一部を他の人に分け与えることだ。それと同じように、笑顔も分け与えることができるのではないかと思った。誰かに笑顔を向けてもらえば、相手にとっての一日が想像以上に明るくて楽しいものになると思う。だから、私が起点となって笑顔を広めたい。笑顔のおすそ分けをすること以外にも、相手がしてもらって嬉しいことをたくさんしたい。家族や友達のことを尊敬したり、感心できたらほめてあげたり、小さなことであっても何かしてもらったら感謝したりして、ささいなことではあるが、笑顔でいられる時間を増やしていこうと思う。少しでも、笑って過ごせる環境につながるように、私は思いやりのこもった行動をし続けたい。